

平成30年度 北海道小学校長会

第1回理事研修会 会長挨拶

速報版 2018.5.15

昨日の総会・研修会、大変お疲れ様でした。皆様のお陰で総会が順調に運営され、平成30年度道小の活動計画、予算等の議案が承認されるとともに、総会宣言が採択されました。厚くお礼申し上げます。



本日の理事研修会では、各専門部の組織づくりと年間活動計画、道教委への要望活動、第70回全連小北海道大会・第61回道小教育研究函館大会の運営体制などについて、協議をお願いすることになります。

この1年間、本理事研修会が、校長の職能向上と本道教育の振興を図ること、そして、各地区において理事の皆様が遺憾なく力を発揮していただくことを目指して、充実した研修・情報交流の場となるよう努めてまいりたいと考えております。

それでは、第1回の理事研修会に当たり、今年度の道小の組織・活動・取組等につきまして、5点ほどお話しいたします。

1点目は、「平成30年度事務局構成及び役員構成についての考え方」です。

事務局幹事及び役員は、一昨年度からの組織改革で、「チーム道小」を一層推進していくため、地区幹事の人数を増やすことといたしました。地区の割り当てについては、事務局研修会等の出席に当たり、距離または交通機関の利便性を踏まえ、比較的負担の少ないと思われる石狩、空知、後志・小樽、胆振、上川・旭川 から1名の幹事を選出していただくこととしております。

また、地区選出の事務局次長は、文教施策懇談会の業務を担当することとなっております。今年度は、後志・小樽地区から選出されている梶野幹事が、この任に当たります。

事務局員の総数につきましては、平成27年度までは21名でしたが29年度からは19名としております。地区幹事の方につきましては、平成27年度までの2名から3名増の5名となっております。

この事務局構成につきましては、本年度末までは、現状の組織を基本とし、全連小北海道大会の成功に向けて活動を推進してまいります。北海道・函館大会終了後には、道中との連携の在り

方・ブロック再編や学校数減少に伴う地区再編などについて検討し、さらなる組織の安定化に努めていきたいと考えております。

2点目は、「平成30年度当初の期限付教諭配置に関わる実態調査について」です。

この調査は、昨年に引き続き、4月当初、「定数欠期限付き教諭が未配置となっており、苦慮している」と複数の地区校長会の方々から情報提供を受けて行ったものです。教員の適正な配置は、学校経営を行っていく上での最低条件であります。

全道における未配置による定数欠1名の学校は38校38人、定数欠2名の学校は4校8名となっており、昨年よりも多くなっています。また、併せて行った産休・育休・病休等の代替教諭におきましても、222名が未配置となっており、昨年よりも多くなっていることが分かりました。

こうしたことを踏まえ、会長の私の方で、明後日、北海道教育委員会の総務政策局長に直接お会いして、この調査結果の文書をお渡しするとともに、内容についてお話しさせていただくこととなっています。なお、本調査における地区名の公表につきましては、伏せておりますので、ご理解くださるようお願いいたします。

3点目は「校長の力量を高めるための研修の充実」についてです。

これにつきましては、道小の研究大会や全連小の全国大会を効果的に活用し、研修を深めることが非常に重要であると考えております。

今年度は、10月4日・5日に、第70回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会が第61回北海道小学校長会教育研究函館大会を兼ねて函館市で開催されます。大会主題「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題「ふるさとの地から世界を見つめ 新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育てる学校経営の推進」の下、研究協議が進められます。全国から2,400名を越える校長が集い、教育の現状を語り合い、全国の教育の質の向上に向けて、校長としての研鑽を積む場となります。北海道小学校長会は、8年に1度訪れる全連小大会の開催ブロックとして、充実した大会になるよう準備を進めています。函館市小学校長会が中心となり、北海道小校長会が一丸となって全国の校長先生を迎えたいと考えています。参加される全道の校長先生には、グループ討議での司会や記録を引き受けていただきたいと考えています。前回の北海道札幌大会では、「分科会の充実こそが最大のおもてなし」という

キャッチフレーズの下、大会を成功裏に導いております。今年度も、全道の皆様のお力をお借りいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

4点目は、要望活動についてです。

最初は、提言書についてです。今年度は、タイトルを「本道教育の一層の充実に向けた教育条件の整備についての提言」といたしました。内容を大きく二つにまとめています。

一つ目は、「新学習指導要領の趣旨を生かした授業構築に向けた教育条件整備への提言」といたしました。私たちが授業改善を進めていく中での教員の配置、研修充実の必要性、教育環境の整備等についてまとめています。

二つ目は、「チームとしての学校の実現に向けた教育条件の整備への提言」といたしました。学校が抱える課題が複雑化・多様化しており、いじめ・不登校などの生徒指導上の課題への対応など、ますます関係機関等との連携が必要になります。北海道教育委員会が策定された「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン』』において示されている取組も含めてまとめています。

「北海道文教施策・予算策定に関する要望書」につきましては、毎年、各地区からいただきました要望をまとめ、次年度に向け、道中・道公教とともに、道教委に要望するものです。8月に行われる文教施策懇談会・各課懇談会にも活用されることになっております。

今後も、道教委、市町村教委だけではなく、文科省・関係行政機関・国会議員や地方議員等への意見表明や要望活動に結び付けていきたいと考えております。各地区の皆様のご協力をお願いいたします。

5点目はお願いになります。今年の8月1日～3日まで、第60回全国公立学校教頭会研究大会札幌大会が札幌市で開催されます。

全国から約3,000人の副校長・教頭先生が来道する大会となります。道内の教頭先生方の参加期待数は100%ですが、現実には厳しいものがあると聞いています。各理事の校長先生におかれましては、大会の趣旨はもちろん、実情についてもあらためて各地区校長会にお伝えいただき、できるだけ多くの教頭先生方が大会に参加でき、大会運営にもスムーズに携われるよう、お力添えをお願いいたします。

結びになりますが、今年も、ここ数年と同様に「チーム北海道」という言葉を掲げて、活動を進めてまいります。北海道中学校長会、北海道公立学校教頭会はもちろん、北海道教育委員会や各市町村教育委員会等の教育行政機関と連携を図りながら活動することが、教育課題の打開につながるものと考えています。

今年度も、北海道教育の充実に向けて、理事の皆様からのお力添えをいただきますようお願い申し上げます。それでは、この1年間、どうぞよろしく願いいたします。